ふかまちのまど

第一三七号　〇五年一〇月一日
発行元　深町町内会連合会
連絡所　☎六三―三八八二

町内会連合会活動報告

町内会連合会会長　高崎修

深町敬老会（九月十九日）

恒例の敬老会を、敬老の日に深小学校屋内運動場で十一時に開会しました。

七五才以上の長寿の方一三八人の中五八人の参加申込みがありましたが、当日は五五人の参加でした。

記念写真の撮影、お祝いの言葉、来賓祝辞、来賓紹介等の開会行事に続き祝宴に入りました。

その後、演芸発表があり、幼稚園児による踊り、小学五・六年生による歌と器楽演奏を始めとして、女性会の踊りと合唱、町内会の尺八、詩吟等もありましたが、長寿の方々が多数元気な歌声を披露して下さいました。

途中から三原市長が出席して激励して下さいました。最後に記念品（毛布）を贈呈して、午後一時半に閉会しましたが、記念品は欠席者にもお届けしました。

本年も女性会が接待で加勢して下さいました。

年々参加者が増加していることは、主催者としては、嬉しい限りで、今後、益々お元気で前向きに暮らして頂くことを期待しています。

参加者、関係者の皆様ご苦労様でした。▲▲

深小だより

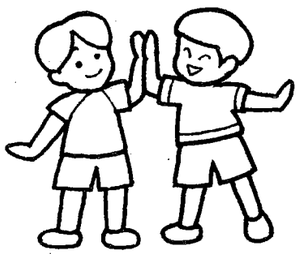
深小学校長　籔本幸子

不審者避難訓練実施

九月二十一日（水）に本校では教室へ不審者が入ってきたとの想定で避難訓練を行いました。

不審者役には三原警察署の生活安全課の方になっていただきました。中之町駐在所・防犯組合の方にもおいでいただき、児童を安全に避難させるにはどうすればよいか指導をしていただき、教職員の連携プレーを密にし対応しました。発見者は誰かに知らせるとともに不審者の感情を逆なでしないよう落ちついて対応することが大事であると教わりました。また、日頃より危機管理意識をもっておくことの重要性も再認識しました。

地域の皆様には「子ども一一〇番の家」をお願いしたり、登下校の児童の様子を見守っていただいたりと日頃よりお世話になっております。子どもたちの安全のため今後ともよろしくお願いいたします。▲▲



子ども会だより

子ども会会長　小川和彦

ソフトボール、キックベースボールの公式大会もいよいよ佳境に入り、子供達も練習に試合にと、精一杯がんばっています。

先日行われた試合結果を報告いたします。

○ソフトボール
県大予選（九月十日）
深町1―3小坂
市子連球技大会（九月十八日）
深町0―4北方

○キックベースボール
市子連球技大会（九月十八日）
深町11―12南小
深町8―22宗郷
▲▲

衆議院議員総選挙投票状況（深町分）

平成17年9月11日実施

性別	有権者数	当日投票者数	不在者投票数
男	425人	275人	11人
女	473人	278人	28人
計	898人	553人	39人

※期日前投票数は不明（市内各町別の集計無し）

千川神社秋季大祭

千川神社責任役員　西本　一二三

町内の皆様には、平素より千川神社の護持運営につきまして、多大なご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、本年の例祭を次のとおり実施しますのでよろしくお願い致します。

なお、時節柄、出費多端のこととは存じますが、何卒一戸あたり一〇〇〇円をご出宝下さいますようよろしくお願い致します。

日時　十月十五日（土）
午後六時～　雨天決行
場所　千川神社（境内）
実施内容
午後六時より：祭典
午後六時三〇分より：小学生の太鼓踊り
午後七時より：神楽
▲▲

如水館中学校卓球部コーチ（ボランティア）のお願い

現在、如水館中学校卓球部では卓球の技術指導をしてくださるコーチを募集しています。

卓球部員は中学一年生～三年生までの男女あわせて一〇名。全員が中学から本格的に卓球を始めており経験者はいません。

市内大会で優勝を目指す私達のチームに是非力をかしてください。

主な練習時間
月曜日～金曜日（十七時～十八時）
土曜日（第一・三週のみ）（十三時三十分～十五時三十分）
場所　如水館中学校　第一アリーナ二階　トレーニングルーム
顧問　藤川

※コーチングの時間、曜日は「練習時間」より自由に選んでいたくことになります。
※ご質問などございましたら如水館中学校卓球部顧問・藤川（63―2454）まで、お気軽にご連絡ください。▲▲

謹んでお悔やみ申し上げます

北迫孝様　八七歳
（上組高下講）九月二六日

深町各種団体十月行事予定

◆町内会連合会
▼市民体育大会参加　九日
◆小学校・幼稚園
▼はなみずき交流　三日
▼諸費、雑費集金㊋　四日
▼遠足㊋　六日
▼集金日・体重測定㊋
PTA役委員会　七日
▼貯金日　十一日
▼ぴよぴよハウス㊋　十三日
▼英語活動　十四日
▼公開研究会・参観日㊋　十九日
▼保健指導㊋　二十日
▼お楽しみ会㊋　二七日
▼テーマタイム・英語活動　二八日
◆女性会
▼親睦会　上旬
中旬
十九日
十三日
◆如水館中学・高校
▼運動会　一日
▼中学高校入試説明会　十六日
▼高校入試説明会
舞台芸術発表会
（尾道市公会堂）　三十日

展望席

「人生は出会いである」と言われています。その出会いを喜び、より深める道具のひとつとして「ハガキ」があります。安芸高田市に住んでいる坂田道信さんは「ハガキによって人生が変わり、ハガキが心を育ててくれた」と、先般某ラジオで話していました。

坂田さんは農業と大工の手伝いをして暮らしていたのですが、教育哲学者・森信三氏（同氏は実に多くのハガキを書いていた）との出会いからハガキを書くようになったといいます。今では、ハガキの素晴らしさを多くの人に伝えるために全国を講演等で駆け回っています。

毎日書くハガキは自分の歴史であり、一種の遺言にもなります。そこで坂田さんは、ハガキをカーボン紙を使って複写（「複写ハガキ」という）にして、全て控を残しています。

私は、数年前、岡山の北部山村にある某民宿でこの坂田さんに出会いました。坂田さんから「複写ハガキ」のお話を聞き、早速手始めに、この民宿で妻への感謝の言葉をハガキに書き、妻へ出しました。帰宅してみると、妻は今まで見たこともない満面の笑顔でした。

便利ではあるが時には危険な出会いもある電子メールより、下手な字や文でも心を込めて書く「ハガキ」を今一度見直してみてはどうでしょうか。

「不思議なことにハガキを書き続けていると、いつの間にか心がきれいになり、集中力、判断力もついてくる」と坂田さんは実体験を語っています。

私の被爆体験（3）

匿名

広島の町は、直爆を受けた人が、「助けてくれー、助けてくれー」と言うので「待ちょうれー」と言って、川の水を汲んでやっていたが、燃える方がひどいので、少々水をかけてもどうにもならなかった。可哀想なけど逃げないといけんと思い、仕方なくその人達をほったまま逃げざるをえなかった。

それにしても、直爆を受けた人は哀れで可哀想だった。「水をくれー、水をくれー」と言うのだが、水をやったらコロッと逝く。あちらもこちらも皮がズルッと剥けて垂れ下がり、幽霊のような状態。体が燃えているような状態だから、喉が渇いてどうにもならないので、脱げる物は皆脱いで裸になって「水を・・・・・」と水を求めながら死んでいく。まさに地獄。余りにも惨い状況をこれ以上は辛くて書けない。

原爆投下の前日、小型飛行機が二機飛んできた。江波の高射砲で撃墜、一機に命中し落下した。それまで高射砲で撃ち落したことはなかったので、みんな大喝采、大ばんざい。ところが、その飛行機の飛行士は落下傘で降りて無事だった。そのあくる日には、原爆を投下したのだから、これは広島の人々を安心させるための策略だったのかもしれない。

原爆投下の一ヵ月前くらいから「疎開をするなら広島へ」と書いたビラを毎日いっぱい上空から撒いていた。広島へ人を集めて原爆投下をしようと考えていたのではないか。さらに、油を毎日上空から撒いていた。油に火がついて火事になるようにしたのだと思う。

あの日から六〇年、原爆の悲惨さを忘れることはありません。二度とこのような悲惨なことが起きないようにひたすら念じるばかりです。

（完）

▲▲

チアーリーディング全国大会

如水館・中学　優勝
高校　準優勝

九月二～四日、東京代々木で開催された「ジャパンカップ二〇〇五チアーリーディング日本選手権大会」で、如水館中学は昨年に続き中学校の部で通算四度目の優勝、同高校は高校の部で初の準優勝に輝きました。

中学、高校の各チームのキャプテンから感動を伝えていただきます。

（編集室）

JAPAN CUPを終えて

如水館中学三年　古賀真由里

私達は、JAPAN CUPの練習を七月頃から始めました。最初は、一年生ばかりで、なかなか思うように演技ができませんでした。ダンスも合わないし、笑顔もないという状態でした。

八月中旬になってくると、段々と上手くなってきて、笑顔も溢れるようになってきました。

八月下旬には、落ちついた演技ができるようになりました。注意されたところも多くあり、その度に、次こそはとやる気を出してやりました。そしてJAPAN CUP当日、みんな少なからず緊張していたと思います。でも、リハーサルでは、結構落ちついていました。

いよいよ本番になり、私達が今まで練習してきた成果を発揮しました。良い演技だったと思います。最高の笑顔で演技をしました。

結果は、見事優勝でした。本当にうれしかったです。これも、今まで、支えてくれた先生方や家族の方のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

みんな、悔いのない演技ができて良かったです。

如水館高校三年　国竹瑠美

今回このような結果をおさめる事ができ、本当にうれしく思っています。

昨年、準決勝敗退という悔しい思いをし、その思いを胸に一年間、毎日必死で練習してきました。時には、気持ちがばらばらになったり、技がなかなか決まらず練習がうまく進まなかったりという事もたくさんありましたが、その度にミーティングをし全員の気持ちを確認し合って、『一つの目標に向かっていこう』と声を掛け合ってやってきました。

ケガも毎日絶える事もなく、何度も何度も失敗しましたが、あきらめず練習をしてきて自信を持って大会を迎える事ができました。

このような最高の結果を残す事ができたのも、たくさんの方々の応援があったからこその結果だと思っています。本当に応援ありがとうございました。そしてこれからもWAVESはさらに上を目指し頑張っていきますので応援よろしくお願いします。

▲▲

健康について（5）

上組　石井良雄　口述
下組　秋永良子　聞き取り

六、やめてほしいこと

そのひとつは自慢することです。自慢こきは、みんなから嫌われます。自分の家や子どものことや服のことなどを、会う人ごとに話をするような人は、誰からも嫌われますよ。人をうらやましがらぬこと、ねたまぬことに気をつけましょう。

自慢していいことは、故郷のことだけです。「故郷の山に向いていうことなし故郷の山はありがたきかな」　これは石川啄木の歌ですが、お国自慢はよいけれど自分の自慢はやめましょう。毎日朗らかに暮らそうではないですか。笑う角には福が来る。人と顔を合わす時はにこにこの笑顔がよいですね。泣くな泣くまい嘆くまい、にこにこ顔がいいですね。

最後になりました。ここでお茶のことをお話します。終戦後シャンハイから引き揚げて赤本でもみたのでしょうか、ハブ茶を飲むことにしました。それから五十年、今でもやはり私の家ではハブ茶を飲んでいます。

ハブ茶は日本のお茶のように葉でなくて実を煎じて飲むものです。今日本で売られている茶は多分中国からきたのでしょう。ハブ草という草の実です。これは胃や腸のためによい薬らしいです。

私も一度作ったことがありますが五〇～六〇センチになった草の実です。これが胃や腸によいようです。私が南小学校で六年生を教えていた時、女の子が三人でしたか日曜日に遊びに来ました。その時コップに一杯ずつこのお茶を出したら、その三人の子等がおいしいこんなにおいしいお茶を今まで飲んだことがないと言いました。たしかにこのお茶はくせのない、いい飲みものです。それでなければ五十年も続くわけはありません。これを皆さんにもおすすめいたします。

これで皆さん方にお話しした いことは一応終わりました。お読み下さって有難う。

人は親切、思いやり、感謝です。文中解らないことがあったらいつでもお電話下さい。

（完）

▲▲

短歌・俳句・詩

中組　仲峠講　竹内博満

よく生きた七十年の長さかな
われとわが身を
褒めて過ごす日

孫四人汗を流して世話をして
草臥れたねと妻肩を出し

暑き日の
暮れるを待てず秋の虫
われもわれもと
鳴き競いゐる

サンライズ大池　山本國市

積連山頭上の空をトビ一羽
七夕や庭にこぼるる天の川

☆サンライズ大池　力石ミヨノ☆

年下の姉と慕いし友恋し
七夕の星となりし夫恋し

▲▲

ふれあい夏まつりを終えて

やっさ工房　光野　婦美恵

やっさ工房が新しくなって一年がたちました。これを契機にもっと地域の皆さまに私達のことを知っていただきたいと言う思いと交流を目的にふれあい夏まつりを開催いたしました。

当日は全館開放し、駐車場は飲食バザー、二階は体験コーナーの革キーホルダーづくり、風船であそぼう、風車をつくろうと題し、風船で動物の作り方や、竹ひごで風車の編み方を一生懸命学習しながら皆さまをお迎えいたしました。三階はお茶席と手漉きはがきの体験コーナーです。

お茶席では、民生委員さんがご協力してくださり素敵なお花でほっとする空間を演出していただきました。

私達はひとつひとつ話合いながら進めてきましたが、皆さまに来ていただけるかとても不安でした。でも大勢の方が来てくださりほんとうにありがたかったです。いろんな方に助けていただいて夏なつりを終えることができました。

紙面をお借りしてお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。そして「楽しかったよ」の一言に私達は元気をもらいました。これからも皆さまと歩んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願いします。

▲▲